

OSHMSを導入した事業場の声

目標に対する達成意欲

定量化した目標及び実施活動計画を設定し、目標が達成できたことにより、職場での自主活動がさらに活発になった。

責任と権限の明確化

法的要求事項や各職位の責任と権限が文書化されたことで、職場に周知された。

労使のコミュニケーション

安全衛生委員会の活用により活動計画の協議等のコミュニケーションが図れた。

情報の共有化

微小災害が発生した時も、その事実が隠され公開し、類似事故防止の水平展開に結びつけ

システム監査

システム監査を通して、職場安全衛生に対する認識に変化が現れた。

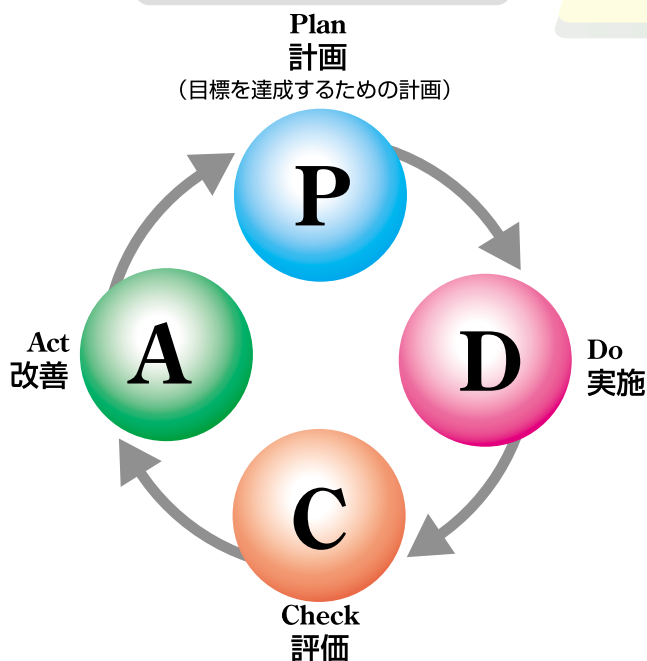
事業者自らの見直し

事業者によるOSHMSの見直し、きちんと行われるようになり、

安全衛生意識の高揚

OSHMSの実施・運用を目標達成に向けた一人ひ

PDCAサイクル



資料出所

- 1 OSHMS促進協議会
「OSHMSへの取り組み状況等に関するアンケート調査」
- 2 中央労働災害防止協会
「JISHA方式適格OSHMS認定事業場アンケート調査」

評価できるシステムが体系化さ

明確になり、誰が・いつ・何をなすべき

共同活動を行うことで、より緊密なコミュニ

ることなく規程に従い報告され、全社として情報を
ることが可能となった。

生活動のレベルアップ、組織及び協力体制の強化が図られ、

を行うことにより、年度毎の成果、問題点の報告がこれまで以上に
次年度の方針・目標が立てやすくなった。

職員全員が参加して行うことにより、共通認識が得られるとともに、
とりの安全衛生意識の高揚につながった。

